

スノーデン米国硫黄島協会名誉会長(海兵隊退役中將)の逝去

2017年3月2日 外務省

- 2月18日、ローレンス(ラリー)・スノーデン米国硫黄島協会名誉会長(海兵隊退役中將)がフロリダ州タラハシの病院で逝去(享年95歳)。
- 死因は不明なるも、肺に水がたまり2月11日から入院、その後容態が悪化し、2人の息子が付き添っていた。
- 海兵隊主催の葬儀が、4月8日、バージニア州の退役軍人墓地で開催予定。



- スノーデン名誉会長は、1945年2月、23歳で海兵隊大尉として中隊を率い硫黄島に上陸。
- 戦後、日米の和解に努め、1985年(終戦40周年)に日米の戦闘に携わった関係者や遺族が参加して開催された「名誉の再会」(Reunion of Honor)の開催に努力。
- 同行事は、同名誉会長の継続的な尽力により、1995年(終戦50周年)に第2回が開催され、その後、2000年から現在に至るまで、「日米硫黄島戦没者合同慰霊追悼顕彰式」として、毎年開催されている(東日本大震災があった2011年を除く)。
- 安倍総理は、2015年4月の米連邦議会上下両院合同会議における演説の中で、上記式典に言及。スノーデン名誉会長と新藤義孝衆議院議員を「熾烈に戦いあった敵は、心の紐帯が結ぶ友になりました」と紹介し、スノーデン名誉会長に対し、「和解の努力を尊く思います」と謝意を表明。

●安倍総理の米連邦議会上下両院合同会議における演説(該当部分抜粋)

「かつての敵、今日の友」

みなさま、いまギャラリーに、ローレンス・スノーデン海兵隊中將がお座りです。70年前の2月、23歳の海兵隊大尉として中隊を率い、硫黄島に上陸した方です。

近年、中將は、硫黄島で開く日米合同の慰霊祭にしばしば参加してこられました。こう、仰っています。

「硫黄島には、勝利を祝うため行ったのではない、行っているのでもない。その厳かなる目的は、双方の戦死者を追悼し、栄誉を称えることだ」。

もうおひとかた、中將の隣にいるのは、新藤義孝国会議員。かつて私の内閣で閣僚を務めた方ですが、この方のお祖父さんこそ、勇猛がいまに伝わる栗林忠道大将・硫黄島守備隊司令官でした。

これを歴史の奇跡と呼ばずして、何をそう呼ぶべきでしょう。

熾烈に戦い合った敵は、心の紐帯が結ぶ友になりました。スノーデン中將、和解の努力を尊く思います。ほんとうに、ありがとうございました。